

■宮本小一 外務官僚。明治前半の草創期外交に奔走、重要な役割を果たした。

みやもとおかず

・・・・・・・・1836＝幕府徒目付宮本久平(守廉)の長男に生まれる。

大塩平八郎乱1837＝1歳：

阿部正弘首座1845＝9歳：

ペリー来航・1853＝17歳：

開国開港・1854＝18歳：

松下村塾・1856＝20歳：昌平坂学問所甲科に及第し、

蕃書調所・1857＝21歳：学問所勤番見習より、

海軍所を経て、

桜田門外変・1860＝24歳：神奈川奉行支配組頭勤方に昇進。

8月18日政変 1863＝27歳：この間、田辺太一らとともに税則改訂交渉に活躍。

明治維新・1868＝32歳：幕府崩壊後、静岡に移って同藩勘定役をしていたが、鎮守府雇となり東京府開市御用掛調役、ついで外国官御用掛に転じ、さらに各国条約書改革調掛となって、以後明治新政府の外交事務に専従する。

戊辰戦争終・1869＝33歳：\*外務省設置されるや外務権少丞に抜擢され、新政府の対朝鮮方策を建議。初の国賓英国王子来日に対処、

初の日刊新聞1870＝34歳：外務少丞に進み、

学問のすすめ1872＝36歳：\*外務大丞に累進。外事左局長の要職につき、記録局長を兼務して外務省記録の整備を進め、

明治6年政変 1873＝37歳：以後、弁事局長、庶務局長などをも兼務、

佐賀の乱・1874＝38歳：この前後の<樺太境界談判>やその調査に出張し、

初の民間工場1875＝39歳：\*<江華島事件>の際には黒田清隆全権に随行渡韓して、日朝修好条規の調印に尽力した。

この間、来日した露・伊・独などの各国王族へ対処、

西南戦争・1877＝41歳：外務大書記官に任じた。

大久保暗殺・1878＝42歳：この前後の<琉球問題解決>をめぐる対清外交、

沖縄県編入・1879＝43歳：米国前大統領グラントなど、相つぐ外国貴賓の来日で、その接伴の重任にあたる。

明治14年政変1881＝45歳：朝鮮国通商章程取調掛に任じ、参事院員外議官補を兼任。

岩倉具視没・1883＝47歳：\*元老院議官に任ぜられ、

帝国憲法発布1889＝53歳：

帝国議会始・1890＝54歳：元老院廃止後に設置された貴族院議員に勅選された。

日清戦争始・1894＝58歳：

Bushidou・1899＝63歳：

日露戦争終・1905＝69歳：

アララギ創刊・1908＝72歳：

民本主義・1916＝80歳：東京巢鴨の自邸で\_没した。